

東大型③ 二項対立を相対化する

名前：

点数： / 16点

日付：

見つける → 指さす → 言いかえる → つなぐ → 書く — 手順は基礎編と同じ。素材の密度だけが上がる。

この一枚の技 最難関大の頻出構造：対立する二つの立場を、共通の前提ごと問い直し、第三の見方 (C) へ進む。A対Bの勝敗を答えたら0点。「どちらも～という点で同じ」という一文が、答案の背骨になる。

規則は自由をうばうと考える人がある。一方で、規則がなければ力の弱い者の自由こそが失われると考える人もいる。二つの主張は正反対に見える。だが、どちらも自由と規則を対立するものとみなす点では、同じ土俵に立っている。規則とは本来、たがいの自由がぶつかり合う場所に引かれた線である。そして、線の引き方をともに問い直し続けられるとき、規則は自由の敵ではなく、自由を分かち合うための言葉となる。

問1 筆者は「自由」と「規則」の関係をどのように捉え直しているか。二つの立場が共有している見方に触れながら、100字以内で説明せよ。 16点 / 目標 15分

設計のヒント：設計順：①両立場の共有前提（対立とみなす）→②規則の再定義（ぶつかる場所の線）→③条件（引き方を問い直せるとき）→④結論（分かち合う言葉）。

問1 模範解答 (95字前後)

両者は自由と規則を対立するものとみなす前提を共有しているが、筆者は規則を、自由どうしがぶつかる場所に引かれた線と捉え、その引き方を共に問い直し続けるとき、規則は自由を分かち合う手段になると考えている。

要素	採点基準	配点
共有前提	二つの立場が「対立とみなす」見方を共有していると指摘	4点
再定義	規則＝自由がぶつかり合う場所に引かれた線	4点
条件	線の引き方を共同で問い直し続けられるとき	4点
結論	規則は自由を分かち合うための手段（言葉）となる	4点

添削ワンポイント（よくある失点）

「規則は必要だという立場に筆者は賛成している」——A・Bどちらかの勝ちとして読む答案は、共有前提の指摘（4点）と再定義（4点）を同時に失う。「どちらも～点で同じ」と書き出せるかが、この型の合否線。Vol.3実践1（二つの読書）で仕込んだ「対比と筆者の立場は別作業」の完成形。

自分の答案が何点か知りたい方は、答案の写真を日本国語塾TOPまでお送りください。要素ごとに採点し、失点の原因を手順のことばで診断してお返しします。（無料相談：nihonkokugojuku.com ※URLは公開時に確定）